

## 「広島平和記念公園」特集

～戦争を知り、平和について考えよう～



平和記念公園一帯は「中島地区」と呼ばれ、かつては広島随一の繁華街でしたが、原子爆弾の投下により辺り一帯は焦土と化しました。その後6年の歳月をかけて整備され、昭和30年に恒久平和を祈念する公園として再生しました。

見学のメインは、原爆ドームと広島平和記念資料館で、ほかにも60を超える慰霊碑や施設が点在します。

### 世界遺産「原爆ドーム」

～被爆の惨禍を伝える歴史の証人～

大正期のモダンな建物が原爆により一瞬で大破しました。ドーム型の鉄骨が残骸として残ったことから1950年代前半から「原爆ドーム」とよばれ、被爆の惨禍を今に伝えています。1996年に世界遺産に登録されました。



### 「平和の鐘」

～平和への思いを込めて鐘をつこう～

核兵器と戦争のない世界の達成を目指し、その精神文化運動のシンボルとして建てられました。鐘づくりの人間国宝・香取正彦氏の作品で、表面には「世界は一つ」を象徴する、国境のない世界地図が浮き彫りになっています。

### 「広島平和記念資料館」

～核兵器廃絶と世界恒久平和について考える館～

原子爆弾による被害の実相を世界中の人々に伝え、ヒロシマの心である核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与することを目的に、昭和30年に開館しました。被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島の被爆前後の歩みや各時代の状況などについて紹介されています。



### 「原爆の子の像」

～原爆症で命を失った少女を悼む～

佐々木禎子さんは2歳の時、原爆が広島に落ち、被爆しました。その後、9年間元気に成長しましたが、小学6年の冬、白血病と診断されました。闘病中、お見舞いとして名古屋から千羽鶴が贈られたのをきっかけに、彼女は「生きたい」という願いを込め、折り鶴を折り始めました。しかしその願いもむなしく、体調は次第に悪化し、1955年10月25日、亜急性骨髄性白血病のため亡くなりました。その死に衝撃を受けた同級生たちが、「原爆で亡くなったすべての子どもたちのための慰霊碑を作ろう」と全国へ呼びかけ、全国3,100校余りの生徒と、イギリスをはじめ世界9か国からの支援により、完成しました。



### ホットなニュース

今年(令和6年)のノーベル平和賞に、日本原水爆被害者団体協議会が授与されました。広島と長崎の被爆者の立場から、核兵器のない世界実現を目指して努力し、核兵器は二度と使われてはならないと目撃者の証言から示したことなど、世界に核兵器廃絶を訴えてきた活動を高く評価されました。